蓑首城三ノ丸跡 と 大條家ゆかりの文化財

令和２年３月　山元町教育委員会

蓑首城と大條家

大條家家紋「おもだか」

蓑首城は「坂本要害」とも呼ばれ、坂本大膳の子である坂本三河が元亀３年（1572 年）に築城した要害です。江戸時代初期の元和２年（1616 年）、この要害は仙台藩伊達家の家臣である「大條家」の居城となり、明治維新まで 252 年間、大條家がこの地を治めました。

三ノ丸跡に残る文化財　ー大手門・板倉・茶室ー

現在の三ノ丸跡には、蓑首城当時の遺構と考えられる「大手門」（①）や、戊辰戦争時武器庫として使用されたと伝えられる「板倉」（②）、さらに、天保３年（1832 年）に大條家が仙台藩主の伊達家から拝領した「茶室」（③）が昭和初期に仙台の大條家屋敷からこの地に移築されて現存しています。

特に茶室は、仙台藩における茶の湯文化・歴史を伝える唯一残る貴重な遺構といえます。

「茶室」の現状と今

大條家ゆかりの茶室は、移築後の経年劣化に加え、平成 23 年（2011 年）に発生した東日本大震災により大きな被害を受けました。

山元町教育委員会では、建物のこれ以上の劣化を防ぐため、平成 29 年度に「仮養生工事」を実施。現在は、建物の修復・再公開に向けた調査・検討を行っています（茶室内部は立入禁止ですが、外観見学は可）。

写真：東日本大震災発生前の茶室の状況

本看板の設置費用に一部には、平成 30 年度に「山元町ふるさと歴史学習会」・「山元いいっ茶組」からいただいた寄付金を活用させていただきました。